



◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通り表彰し、關係地方廳に其の傳達方を依頼せり。

△昭和十七年五月十五日

表彰狀 一等功績章 三ツ組木杯

廣島縣修路工夫

同

竹本 謙一  
先沖勘太郎

表彰狀 二等功績章 單杯

同

宮田多郎九

同

山田 又助

同

野村 亮司

同

小椿 勸一

同

金近 増次

同

梅田 料一

同

安井登茂一

同

林 壯一

同

同

高木 實穗

◎工學博士三浦七郎氏 元本會幹事工學博士三浦七郎氏は四月二十八日興亞院技師に任じ技術部長を命ぜられた。

◎金子堅太郎伯 大勳位從一位樞密顧問官伯爵金子堅太郎氏は神奈川縣下葉山一色松莊に於て薨去せらる。享年九十歲。

◎法學博士河田嗣郎氏 大阪商科大学學長法學博士河田嗣郎氏は四月六日發病、肺炎から急性肋膜炎を併發し二十一日午前一時

十分永眠した、享年六十。

◎明治以後本邦土木と外人

社団法人土木學會に於ては「明治維新の事成るや、諸般の制度未だ整はざるに、早くも歐米文化攝取の要に迫られ、我が人材の彼地に涉り、或は視察し或は留學する者頗る多く、以て我が國文化の向上に貢獻する所甚大なるものありしが、就中教育、殖産興業、治水、土木、鐵道、橋梁等直ちに實施するを必要とするものに於ては、各方面に至り歐米より工師工手を招聘して、其の指導を受けたるもの亦夥しきものありき。顧ふに當時來朝せる之等の工師工手は、何れも皆彼の地に於いても優秀なるものなりしが如し、之れ實に彼等の本國に於ても、我國に派遣するものに就きては、誠意を以て學術人物共に優秀なるを選抜したるに依らずんばならず、即ち之を事實に徴するも、其の成績の極めて佳良なるのみならず、彼等より其の學問技術を傳習したる邦人は、皆我國に

於ける先覺者として、明治文化の大成に貢献せるを以てしても知るべきなり、此の如きは、彼の國々に對して吾人の常に深く感謝する所なると同時に、後進國に對する吾等の義務も亦斯の如くなるべきを痛感するものなり。然るに此等の功勞ある多數外人の事蹟に至つては、之を調査せるもの未だ多きを聞かざるのみならず其の功績の湮滅に歸するものまた漸く多からんとす。前に於て我が土木學會は之を遺憾とし昭和十三年六月土木關係の外人功績調査を企てたり云々とて「本邦土木と外人」を寄贈せらる、調査委員の勞を謝すると共に土木學會が率先して斯る有益なる書を刊行せられたることを感謝する。

◎近刊圖書雜誌（交換寄贈）

○東京市土木試験所報告（十六年度）

（瀝青廢材補貼工法、「ソイルコンクリート」補貼工法、瀝青乳劑の性状、砂の粒度と「アスファルトモルタル」の安定度、「トライソックベイント」の調査、道路内鐵矢板拔跡の處理、竹筋コンクリートの試験等）

○港灣（第二〇卷四、五號）

○セメント界彙報（第四一〇號）

○東大陸（五月號）（日本官僚の特殊性）

○都市問題（第三四卷五號）

○土木學會誌（第二八卷四號）

○清和（第九卷四卷）

○土木工業（第四卷四號）

（工學博士山崎匡輔氏「隧道の技術と設計」）

○大大阪（五月號）

○電氣通信學會雜誌（第二二九號）

○斯民（第三七編四號）

○大阪商工會議所月報（第四一九號）

○鐵道之研究（三月號）

○石油時代（四月號）

○警察協會雜誌（四月號）

○自警（四月號）

○鐵道軌道經營資料（第二五卷四號）

○土木滿洲（第二卷一號）

○觀光

○全國學會協會彙報（日本學術振興會）

○警察協會雜誌（五月）

○法律時報（五月號）

○道路（第四卷第五號）